

みなさまの熱い支援に心より感謝申しあげます ～あらたな闘いのスタートです～



六ヶ所村長選挙を闘って

立候補者 山田 清彦

色々な経緯があったけれども、私が村長選挙に挑むと決めたことで、多くの方から激励やカンパ等が寄せられたことに感謝しています。

また、かつての同志にも事務的な作業等にもご協力いただいたことに、あらためて感謝申し上げたいと思います。

選挙の結果は、厳しく受け止めなければなりません。争点は再処理工場ですから、日本原燃の進捗遅れを見るときに、こちらの訴えが実証されていると実感しています。

新型コロナ終息が見えてきたら日本原燃との直接交渉を行い「官民挙げて動かす」再処理工場ストップを断固求めたいと思います。敵は大きいですが、皆さんと一緒に頑張る決意を込めてお礼の言葉とします。

■ 今回（2022年）の選挙結果（投票率 60.05%）

[当] 戸田 衛 75歳（現） 4,733票 [落] 山田 清彦 65歳（新） 246票…獲得率 4.94%

■ 前回（2018年）の選挙結果（投票率 62.28%）

[当] 戸田 衛 71歳（現） 5,021票 [落] 遠藤 順子 58歳（新） 323票…獲得率 6.04%

お礼のごあいさつ

山田きよひこ選対本部長 遠藤 順子

ご支援・応援くださった県内外の個人、団体・組織の皆さまに、この場をお借りしまして心より感謝申し上げます。皆さまのご支援・応援により無事に選挙戦を終えることができました。選挙の結果は大変厳しいものでありましたが、今回の選挙では、六ヶ所村議会議員18人全員が現職側に付いて票の確保に奔走しており、そのような中で246票を獲得できたことは、ある程度評価できると考えております。

また、選挙戦を通じて青森県内のみでなく、全国の方々に再処理の問題点を知っていただくことができたことは大きな収穫であったと考えております。

私たちは、今後も再処理の危険性などについて全国に発信して参ります。今後とも何卒よろしくお願いいたします。



村の方々の気持ちが見えてきた選挙でした

山田きよひこ選対事務局長 竹浪 純

六ヶ所村長選挙に協力してくださったすべての皆様から心から感謝申し上げます。開票結果は山田清彦 246票と前回の遠藤さんが得票した 323票に届かず大変残念なものでしたが、一方で、六ヶ所村の方々の気持ちが見えてきた、そんな選挙でした。

相手から見れば、いよいよ「ラスボス」登場で、完膚なきまで叩き潰そうと全力を挙げたに違いありません。しかし結果は、「投票率最低思惑外れ」と地方紙に評されてしまいました。選挙戦では、山田候補に駆け寄ってくる方もおられ、前回との明らかな雰囲気の違いが感じられました。泊地区の方々の投票率が村内最低（48.4%）だったことは象徴的です。戸田氏には入れたくない、しかし村外からの候補には入れられない、その結果が数字に表れたように思います。今後、泊の方々は

はじめ、積極的に投票に行ってもらえるような、地元の方々に信頼感が得られる取り組みが私たちには必要ではないでしょうか。引き続き、六ヶ所再処理工場稼働中止に向け、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



六ヶ所村長選挙の意義

青森県労働組合総連合 議長 奥村 栄

私は山田清彦氏が困難を乗り越え、立候補した六ヶ所村長選挙の意義を次のように考えます。

1. 山田氏が立候補しなければ、前回より下回ったといえ反対票を入れた村内 246 人は選挙で反対の意思表示をすることができなかった。
2. 山田氏が立候補しなければ、青森県民に核燃施設の危険性をマスコミを通じて知らせることができなかった。
3. 山田氏が立候補しなければ、県内反原発・反核燃の運動は、その意思を鮮明にする絶好の機会を失った。
4. 山田氏が立候補しなければ、県内そして全国の反原発・反核燃運動の団結・連帯を高める重要な機会を失った。



六ヶ所村長選挙を終えて

核燃サイクル阻止 1 万人訴訟原告団 代表 浅石 紘 爾

4 年に一度は巡ってくる六ヶ所村長選挙に立候補者を擁立することは物心両面から大変なことであり、また、六ヶ所村長選挙で、「核燃反対」「再処理中止」の声を上げなければ、これまでの村政の在り方を黙認したとみなされてしまい、反対の声の受け皿をなくしてしまうこととなります。今回の選挙も、核燃反対候補が立候補したことで、青森県や六ヶ所村の現状を全国に情報発信できたこと、全国の多くの方から応援をいただいたこと、選挙期間中に六ヶ所村内をまわり「再処理工場は危険」という声を届けられたことは、これからの県内は勿論のこと全国的にも反対運動の絆を強めることができたという意味において、意義ある闘いであったと評価しております。「六ヶ所村の新しい風」の方々が、ご苦労されて立候補者を決め、選挙に臨まれたことに感謝と敬意を表します。



「六ヶ所村の新しい風」の方々が、ご苦労されて立候補者を決め、選挙に臨まれたことに感謝と敬意を表します。

この青い海と山を子ども達に残したい

花とハーブの里 代表 菊川 慶 子

嵐のような村長選が終わった。私自身は何もせず裏方に徹しただけなのだが、その中で考えさせられたことは色々あった。現職の村議会議員全員が推進派であること、今、原子力施設が原因で体を壊している人たちがいるのは分かっているはずなのに。

福島原発事故以降、村は日本で一番安全な土地になった。でもいつまで安全なままでいられるのか。再処理工場は経済的に成り立たないことは明らかだ。それを指摘する勇気のある政治家がいつか六ヶ所村に生まれるだろうか。この青い海と山を子ども達に残したいと心から思った数ヶ月間。いつかその夢が叶いますように…。

山田清彦さん、本当にありがとうございました。



核燃料サイクルからの勇気ある撤退を！

青森県平和労組推進会議 議長 阿部 一 久

選挙戦大変ご苦労様でした。今回の選挙は、立候補表明から 2 カ月と厳しく、「核燃反対」を訴える側の思いが、時間的余裕もなく、村民に十分に届かなかったのか。それとも、長年に亘り、核燃マネーに依存し暮らしが成り立ってきた村民には、「現状」を選択するしか無かったのか、と考えてしまいます。

六ヶ所再処理工場は、当初 1997 年の完工予定が延期続きで、未だ完工・稼働の見通しは不透明な状況です。

また、福島第一原発事故でも明らかになった様に、核関連技術が確立されていない状況下では、もう核との共存はあり得ない事ははっきりしました。

六ヶ所村民、青森県民が未来永劫その地域で安心安全に暮らしていける、その保障を与えるのが県と国の責務です。私たちは、今後も諦める事無く「核燃料サイクル計画」からの勇気ある撤退を国・県はもとより、六ヶ所村をはじめ全国に訴えていきましょう。



白神、三内丸山の次は下北半島で

青森県議会議員 鹿内 博



白神山は春秋林道の建設を止めて世界自然遺産となり、三内丸山は野球場の建設を止めて世界文化遺産になった。春秋林道と野球場の建設を続けるよりも止める方が理にかなっていたし、止めて良かった。

今度は下北半島の原子力政策を止める番である。世界遺産にする必要はなく、原子力に代わる産業を国が総力を挙げてやればできることを福島で証明している。ただし、事故が発生し、行き場のない核のゴミが増えてからでは遅く、直ちにやめるべきだ。

六ヶ所村長選挙を終えて

社民フォーラム青森 事務局長 原子 秀 夫

六ヶ所村長選挙に向けて活動を進めてきた選挙母体の「六ヶ所村の新しい風」の皆さま方に敬意を表します。

社民フォーラム青森は、山田清彦氏が村長選挙に立候補を決意したことを受け、過日開催した第 2 回総会で山田氏からの決意表明を受け、選挙戦への支援を確認してきました。

選挙結果は、過去最低の投票率、得票数も両氏とも前回選挙を下回るものでした。これは、核燃料サイクル事業が実質的に破綻している状況の一方で、六ヶ所村は核燃料サイクルで存立しているという実態。

この矛盾する状況が有権者の投票行動に反映しているのではと推察しています。

「新しい風」の皆さま方には、引き続き県民に核燃料再処理事業の問題点を訴え、活動を強化して下さるようご期待申し上げます。



**全国の多くのみなさまから物心両面でご協力をいただきました。
カンパ額は前回は上回る 170 万円程度を集約しました。厚くお礼申し上げます。**

今回の選挙では多くの仲間から激励、連帯のメッセージや為書、檄文などをいただきました。

右にアイウエオ順に掲載しました。事務局で把握漏れなどがあるかもしれませんが、その際にご容赦願います。(資金カンパ分については割愛させていただきました。)



【メッセージ、檄文などを寄せられた方々】

※集約漏れがありましたらご容赦ください 敬称略：アイウエオ順

- 青島正晴 (横浜市)
- 浅石紘爾 (核燃サイクル阻止 1 万人訴訟原告団代表)
- 阿部一久 (青森県平和推進労働組合会議議長)
- あべともこ (衆議院議員)
- 余子豊吾男
- イイツカ
- 池内了
- 池田洋樹
- 市川俊光 (日本共産党上十三地区委員長)
- 伊藤和子
- 今村修 (社会民主党青森県連合代表)
- 内海洋一 (神奈川社民公認)
- 大竹進 (大竹整形外科)
- 太田則之 (道民視察団)
- 奥村榮 (青森県労連議長)
- 核燃・だまっちゃおられん津軽の会一同
- 核の中間貯蔵施設はいらない! 下北の会
- 川口真由美 (闘うシンガーソングライター)
- 菊川慶子 (花とハーブの里代表)
- 北上あきひと (兵庫県議会議員)
- 北原智史
- 木原壮林 (若狭の原発を考える会)
- 久慈年和 (社民フォーラム)
- 工藤睦
- 久利嘉文
- 小池晃 (日本共産党書記局長・参議院議員)
- 古村一雄 (核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会)
- 再稼働阻止全国ネットワーク
- 三枝豪 (六ヶ所村の新しい風幹事川崎市在住)
- 酒井孝一 (原水禁神奈川)
- 三陸の海を放射能から守る岩手の会一同
- 鹿内博 (青森県議会議員)
- 芝崎
- 渋谷哲一 (青森県議会議員)
- 瀬尾英幸 (北海道泊)
- 高橋精巧 (さよなら原発神戸アクション共同世話人)
- 高橋ちづ子 (日本共産党衆議院議員団長)
- 田中章子 (原発の危険性を考える宝塚の会)
- 田名部匡代 (参議院議員)
- 種市信雄 (核燃から漁場を守る会会長)
- 中畠哲演 (若狭・小浜から)
- 中島まり英 (横浜)
- 中西綾子
- 野村保子 (大間とわたしたち・未来につながる会・函館市)
- 畑中孝之 (日本共産党青森県委員会委員長)
- 福島みずほ (社会民主党党首・参議院議員)
- 福島みずほかながわ応援団
- 堀幸光 (市民連合あおもり事務局長)
- 毎年六がつ十かに新納屋泉田神社堂に集まる有志一同
- マキノミドリ
- マシオン恵美香 (ベクレルフリー北海道)
- 升田世喜男 (元衆議院議員)
- 松下照幸 (福井県美浜町議会議員)
- 水戸喜世子 (高槻市)
- 向原祥隆 (ストップ川内原発! 3.11 鹿児島実行委員会共同代表)
- 芳沢あきこ (基地のない平和で豊かな沖縄をめざす会共同代表)

※資金カンパ分は割愛しました。

【過去の六ヶ所村長選挙の結果一覧】

投票日	投票率	候補者	得票数	候補者	得票数	候補者	得票数	候補者	得票数
2022年6月	60.05%	戸田 衛	4,733	山田 清彦	246				
2018年6月	62.28%	戸田 衛	5,021	遠藤 順子	323				
2014年6月	62.94%	戸田 衛	5,144	菊川 慶子	152	梅北 陽子	96	関 千尋	22
2010年6月	60.31%	古川健治	5,106	梅北 陽子	274				
2006年6月	62.41%	古川 健治	5,106	梅北 陽子	374				
2002年7月	73.80%	古川 健治	5,114	大関 正光	1,339	高田與三郎	70		
2001年11月	88.96%	橋本 寿	5,598	古泊 宏	2,401	高田與三郎	77		
1997年11月	95.42%	橋本 寿	4,407	土田 浩	3,850	高田與三郎	84		
1993年12月	67.83%	土田 浩	4,196	高田與三郎	1,252				
1990年12月	94.02%	土田 浩	3,820	古川伊勢松	3,514	高梨 酉蔵	341		
1986年12月	83.78%	古川伊勢松	4,343	滝口作兵卫	2,469	中村 雄喜	80		

デーリー東北紙の記事です（6月19日）

時評

■ 六ヶ所村長選と核燃

国策の行方、今後も注視

任期満了に伴う六ヶ所村長選が投票され、核燃料サイクル事業に協力姿勢を示す現職の戸田衛氏が大差で3選を果たした。中止を訴える新人候補に対し、推進派の現職が9割超の得票率に上るといふ従来の形勢は今後も変わらなかつた。

村内に立地する事業の要は、原発で使い終えた核燃料から再利用できるプルトニウムを取り出す日本原燃の再処理工場だ。地元が立地協力基本協定を締結してから37年。雇用や財政といった面で地元が多大な「恩恵」をもたらしてきた核燃との離別は、有権者にとって非現実的だったかもしれない。

ただ、国策が「絶対」と言えないのは、国策に振り回されてきた青森県の歴史が物語っている。地域住民の大きな期待を背負ったむつ製鉄とフジ製糖は、いずれも数年で挫折した。六ヶ所村を主な舞台とするむつ小川原開発も、巨大コンビナート構想が2度の石油危機を経て現在の姿に変容した。

事実上の次期首相選びだった昨年の自民党総裁選では、事業の是非を巡る論争が突風のように起きた。旧民主党政権は一時、サイクル政策の根本見直しに本腰を入れた。国政でも、時々の判断で方向性が変わり得ることを示した。

こうした議論が起ころのは、サイクル政策の展望が開けていないからだろう。

実用化の目標時期が21世紀後半に先送りされた高速炉開発。代わってプルトニウムを再利用するはずのプルサーマル発電は、肝心の原発再稼働が停滞している。世界が大量保有に敵しい目を向ける日本のプルトニウム消費は進まず、再処理工場が担うとされた「資源の有効活用」という大義は薄れている。

安全対策が厳格化された原子力規制委員会の審査を通じて、試運転開始から16年余りが経過する中、経年劣化した設備などへの懸念が指摘されている。もとより、対策の実効性を担保する原燃の資質に疑問符が付いた場面は一度や二度ではない。原燃が2022年度上期とする現在の完成目標も、26回目の延期が濃厚だ。

再処理の存在意義を揺るがしかねない状況は、何も東京電力福島第1原発事故を契機に生じたものではない。村に一時貯蔵している高レベル放射性廃棄物の最終処分地選定も、何も見通しは立っていない。

地元が地域振興のよりどころとする核燃料サイクル。国は「推進する」という約束を繰り返す。果たして約束は続くのか、今後

も注視していきたい。

選挙ウォッチャー「ちだい」さんによる六ヶ所村長選挙レポート

全国の特徴的な選挙を独自の視点で取材している「ちだい」さんによる今回の六ヶ所村長選のレポートが無料でホームページ上に公開されています。写真も満載で、私たちの選挙総括にも有意義なものになると思います。レポート全文をお読みになる場合は、こちらからどうぞ。



ぜひともご一読ください。

「ちだい」さんのまとめ（抜粋）

……なかなか難しいところはあるのかもしれませんが、愚かな選択をし続けているのが、今の日本なのです。ですから、何かを学び、知識を持つ者たちからすると、とても生きづらい社会が出来上がってしまっているのかもしれませんが、それでもコツコツとやれることをやり続け、世の中を変えるための努力を「継続」しなければならないのだと思います。コツコツやり続ければ、N国党だって滅びるのだし、ほんの少しは変わります。

だから、僕はこうした選挙も、けっして無駄に終わっているわけではないのではないかと考えています。明日の日本のために、できることを小さなことからコツコツと積み重ねてまいりましょう。

【編集後記に代えて】

選対本部長代行 三上 武志

- 今回の選挙情報「やまだ通信」は各党、各団体、支援者をつなぐ武器として週1回の発行をやり切った。大きな力を発揮できたと自負しています。全面的に発行を支えてくれた栗橋伸夫さん（フォーラムしもきた）、本当にありがとうございました。
- 戸田陣営がずいぶん山田候補に危機感を持ち、これまで以上に必死に闘ってきたことが窺える。しかし、勝ちましたが得票数は減らし投票率も過去最低となった。これは負けに等しい結果であり、我々は決して負けてはいない！
- ところで、どうしたら我々が票を大きく伸ばせるのだろうか。再処理が危険なことを決して知らない訳ではない、ましてロシアによる戦争を見て、六ヶ所は危険地帯になるのでは、という脅威を感じているのではないか。
- 求められるのは『原発・核燃にしがみつかなくとも村は生きていける』と村民が思えることだ。「縄文文化を考える集い」「村の特産品の販売セール」等を村民と共に考え、道を拓くための試みをする。このことに挑戦してみてもどうだろう。ていねいな総括議論が求められる。

